



AO入試を伴う国際人材育成のための法学部・LL.M.（英語による法学修士課程） 一貫教育プログラムの創設について

概要

九州大学法学部では、日本人学生を国際人として養成することを目的に、一般入試と並び、学部特別入試（募集人員10名）をAO入試（大学入試センター試験を課す）として、平成27年度入試から実施します。この新入試によって入学する学生には、通常の法学部のカリキュラムの範囲内で国際性と英語力を涵養する授業を積極的に提供する他、複数回の留学機会を確保し、一貫教育プログラムの最終年度には外国人留学生とともに英語のみで「修士（法学）」の学位を取得できるよう、少人数指導を行います。

背景

九州大学法学部は、平成12年全国の国立大学に先駆けて、AO入試を導入しました。しかし導入から9年後の平成21年、当初の狙いであった「ユニークな人材の獲得」が、受験対策の徹底等によって困難になったため、これを廃止いたしました。

もっとも、本学法学部は「ユニークな人材の獲得」をあきらめた訳ではありません。現在の社会で囁望される「ユニークな人材」とは、海外に市場を求める日本企業やグローバル企業で、法律家として活躍できる即戦力の法律グローバル人材であるとの結論に達し、そのような夢を持った受験生のために、新たにAO入試を復活させます。

九州大学大学院法学府では、平成6年に英語のみで「修士（法学）」の学位を取得できるLL.M.コースを我が国で初めて設置し、以来、世界約50の国と地域から400名を超える卒業生を輩出して、欧米トップ大学のLL.M.コースに匹敵する実績を挙げてきました<http://www.law.kyushu-u.ac.jp/programsinenglish/>。過去18年間にこのコースで学んだのは、たった1人の日本人を除き、全て外国人で、さながら日本の中の小さなグローバル社会となっており、世界中に卒業生のネットワークが広がっています。このようなLL.M.コースに日本人学生を受け入れ、法学部との一貫教育を通じて、「法律的専門性を持つグローバル人材」を育成することができるのは、国内では九州大学法学部だけです。

内容

- 学部AO入試（詳しくは<http://www.kyushu-u.ac.jp/entrance/examination/index.php>)
 - 出願資格として、英語能力試験の成績がTOEFL500点程度以上であることを課します。
 - 書類審査による第1次選抜を行います。
 - 大学入試センター試験を課します。
 - 英語学力検査と面接による第2次選抜を、福岡と東京の2会場で行います。
- 学部カリキュラム
AO入試で入学した学生は：
 - 1年次から、基幹教育（平成23年9月13日プレスリリース）の枠内で英語力や国際性を涵養する授業を履修します。
 - カリキュラム外で、LL.M.コース教員による少人数教育を受けます。
 - 2年次～4年次には、通常の法学部のカリキュラムにより、しっかりと法学の基礎を身につけます。この間、特別に指定されたゼミナールに所属し、LL.M.コースに進学するための専門的な英語力を磨き、国際経済ビジネス法の基礎知識を体得します。
 - LL.M.コース在籍等の外国人留学生とともに学びつつ交流する様々な授業やイベントに参加します。

- 留学

さらに、本プログラムに所属する学生は：

- 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択された「スパイラル型協働教育モデル：リーガルマインドによる普遍性と多様性の均衡を目指して」(平成24年10月17日プレスリリース)のプロジェクトとして、タイ、フィリピン、マレーシア、シンガポールへの短期留学に複数回参加します。
- その他、学生交流協定締結校への交換留学生として短期または長期で留学し、留学が当たり前の環境で学びます。

- LL.M.

- 九州大学のLL.M.コースは、文部科学省の「国費留学生の優先配置を行う特別プログラム」に採択されており、優秀な外国人留学生が学んでいます。日本人学生も一緒に切磋琢磨する事ができます。
- 授業は、専任の外国人教員及び日本人教員、さらには内外の研究者や実務家によって全て英語で行われ、修士論文も英語で執筆します。
- 授業は、最先端の国際経済ビジネス法分野に関連する諸科目で、実務にも直結するものです。

- 修了

- 学部卒業時には「学士（法学）」の、LL.M.コース修了時には「修士（法学）」の学位が与えられます。
- 本プログラムの学生も、LL.M.コースに進学せず法学部卒業生として、法科大学院など別の進路を選ぶ事も可能です。
- LL.M.コースを修了すると、世界中に広がる、閣僚や政府高官を含む Kyudai-LL.M.ネットワークの一員として、国際的に活躍する事が期待されます。

■効果

法律的専門性をもった日本人グローバル人材を輩出することで、国際社会における日本のプレゼンスを確保するとともに、ひいては国際社会の協調的発展に寄与できると考えています。

■今後の展開

平成25年4月に専用のホームページを開設し、順次更新する予定です。

なお、平成27年度入試までの間も、LL.M.コースの通常の選抜では日本人も受け入れます。平成24年度から、社会人向けに、LL.M.社会人選抜を導入し、英語力と専門性を磨く機会を用意しました。さらに、法学部でもすでに上記カリキュラムの整備を始めていますので、九州大学法学部に入学しこれらを履修すると、LL.M.コースへの近道となります。

【お問い合わせ】

法学研究院 教授 五十君（いぎみ）麻里子

電話：092-642-3203

FAX：092-642-4162

Mail：igimi@law.kyushu-u.ac.jp

(授業や会議で電話に出られないときがあります。
できるだけメールをご利用ください。)

AO入試を伴う国際人材育成のための法学部・LL.M.(英語による法学修士課程)一貫教育プログラムの創設について

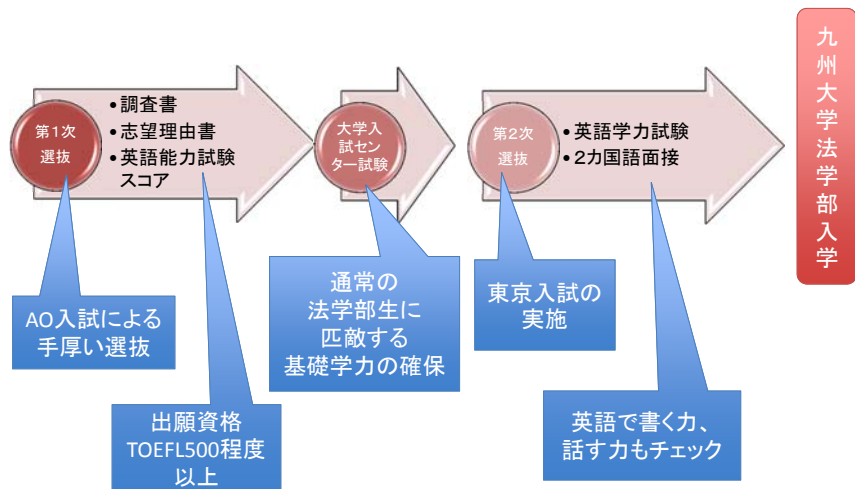
法学分野における日本人国際人材養成が必要
この社会的要請に応え得るのは**九大法**において他にない:何故?

- | | | |
|----------------------------------|---|-------------------------|
| 1. LL.M開設(平成6年)以来の実績 | ➡ | グローバルスタンダードの国際経済ビジネス法教育 |
| 2. 文科省「国費留学生を優先的に配置する特別プログラム」に採択 | ➡ | 国際的学習環境の確保 |
| 3. 文科省「大学の世界展開力強化事業」に採択 | ➡ | カリキュラムの一環としての留学派遣 |
| 4. 「法学部国際化プロジェクト」の取組実績 | ➡ | 学部レベルでの英語力強化・国際性涵養教育 |

LL.M.開設以来の国際コースの実績



学部入試からの改革: 新規に「AO入試」を導入



学部・修士一貫教育

